

USE Readへ繋ぐ語彙習得 —単語クイズを使った4ステップ—

吉永早紀子

(大分県中津市立本耶馬溪中学校)

1. 授業における語彙習得のあり方

学習指導要領の改訂により、授業時数は105時間から140時間、語彙は約900語から約1200語となりました。授業時数が増えたとは言え、3年間で1200語を教え、その習得と定着を目指すにはどうするのか、と常に悩むところだと思います。単語に限らず、「先週教えたのに…」と、学習した内容を覚えていない生徒の様子にがっかりすることもよくあるものです。

しかし、当然のことながら一度見ただけの外国語を覚えられないはずはありません。それなら、覚えられよう「出会う回数」を増やせばいいのではないのでしょうか。例えば、50の単語を6回に分け6時間かけて教えるのではなく、50の単語を繰り返し6時間に渡り学習していくという具合に。ここでは「定着は繰り返し」という視点から模索した「帯学習としての語彙習得方法」をご紹介します。

2. NEW CROWNの構造を活かして

NEW CROWNの教科書は、平成24年度の改訂で大きく構造が変わりました。比較的短い会話や文章から成るGETを終えると、USE Readと題した長文(3年生にもなれば200～300語)が現れます。従来の自分のスタイルで扱えば、文章を区切りながら数時間に分けて学習する授業でしたが、それではUSE Readの良さを活かしきれませんでした。

公立高校入試問題では、今や500語近い長文が出題されます。「まとまった量の文章を読む力」が求められ、そのためには語彙力が不可欠です。例えば、3年生Lesson 7のUSE Readでは、約20の新出単語が導入されます。たとえ単語の意味調べを宿

題にしていたとしても、学習したばかりで発音も意味もよくわからない単語が並ぶ中では、読解に大きく躓く生徒が出てしまいます。語彙の習得・定着、そして、生徒が「読解」に踏み出せるだけの語彙を持ってUSE Readに臨めるようにしたい。そこで行ったのが帯学習の単語クイズです。

3. 単語クイズを使った語彙習得の4ステップ

語彙習得の帯学習を単語クイズとして、4つの段階を設定します(①発音②和訳③英訳④英訳筆記)。これは、ペア活動としてパートナー同士で採点し合い、授業始めにテンポ良く4～5分程度で行います。

①発音のA段階

まずは、英語を見て正しく発音します。家庭学習用に、50語のカタカナ読みと和訳が載っているプリントを事前に配っておきます。単語クイズを始める数日前の授業で配り、数回だけ教師について発音練習をやっておくと、たいていの生徒は事前に自分なりの練習をしてきます。A段階は、英語を発音するだけなので、難易度を見て60～70秒で切ります。

②和訳のB段階

次は、英語を見て日本語の意味を答えます。「みんな日本語話せるんだからできるぞ！」なんて声をかけながら頑張らせると、「あーなんだっけこれー！」など、自分の記憶と闘いながら生徒は頑張ります。ここからは、制限時間を90秒とします。

③英訳のC段階

最後は、日本語を見てその意味する英語を答えます。A段階で覚えた発音、B段階で一致させたその日本語の意味から、一見難易度の高そうな単語でも生徒は予想以上にスラスラと答えていきます。

④筆記テスト

C 段階を終えた数日後、50 問一気に筆記テストを行います。クラスの実態や生徒の学習段階に応じて、10 問ずつ、半分ずつなど区切ることもありますが、最後に筆記テストがあることを生徒に知らせておけば、毎日の自学で生徒は練習してきます。

<単語クイズのポイント>

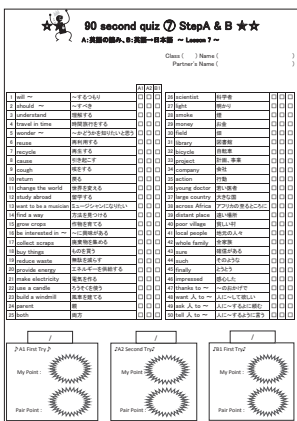
- ・ABC の各段階を、それぞれの段階での伸びが分かるよう 2 回ずつ計 6 回行うこと
- ・スコアの変化がわかるように常に 50 点満点とすること、また、タイムを意識できるように 90 秒 (A 段階は 60 ~ 70 秒) の制限時間を設けること
- ・教科書 USE Read の読解に入る頃に C 段階が終わるようタイミングを合わせて行うこと
- ・ペアのスコア合計が 100 点満点になるようにし、パートナーのスコアやその伸びもお互いに意識して高め合えるようにすること
- ・「前回の自分を越えること」が一番大切であり、周りとの比較ではなく個々の「伸び」を評価すること

4. 単語クイズ作成にあたって

クイズの作成時、いくつか気をつけるべきことがあります。1 つは、50 問全てを新出のものにしないということです。レッスン毎に区切ると、50 問全てが新出単語になることはほぼありません (前述した 3 年生 L7 の新出単語は約 40 語)。新出単語に加えて、既習の頻出単語や比較的覚えやすい単語などを交えておくと、生徒が学習しやすくなります。

また、動詞はよく一緒に使われる目的語、形容詞はよく一緒に使われる名詞などと合わせると、意味

だけでなく使い方も学習することができます。例えば 3 年生 L7 の USE Read では、'I want to build a windmill company that provides energy to people across Africa.' という文があります。ここでは



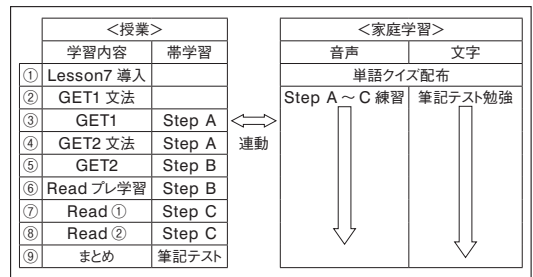
単語クイズ 採点用紙例

windmill, company, provide の 3 つが新出単語ですが、

- ① windmill → build a windmill (既習の動詞と)
- ② company → company (日本語でも耳慣れた単語なので 1 語のまま)
- ③ provide → provide energy (目的語と一緒に) といった感じで出題します。

5. 単語クイズを行うタイミング

3 年生 L7 を 9 時間計画で指導する際、学習内容、帯学習、さらに、期待される家庭学習の連動は、以下のような図で表すことができます。



USE Read に入る授業あたりで単語クイズの C 段階を終えられるよう、逆算して帯学習をスタートします。そうすることで、授業と並行して新出単語を習得していくことができ、また、必要な語彙を備えた上で USE Read の読解に挑むことができます。

6. おわりに

単語クイズを始めた頃、ほとんどの生徒は「こんなにたくさん無理！」と弱腰でした。しかし、「何回もやるうちに意外と覚えられる！」「教科書がよくわかるようになった！」という声が次第に上がり始め、活動が定着してきた頃には、5 分前に教室に入るとほとんどの生徒がブツブツと練習するようになっていました。

単語クイズを終え教科書に向かう生徒にとって、新出単語は既習単語であり、「この単語わかる！」「この文章の意味わかった！」という喜びや自信に繋がります。教科書から語彙を習得するのではなく、既に習得した語彙で教科書を読み取る。英語「で」学ぶ読み物としての教科書も、面白いものです。

【参考文献】
田尻悟郎 (2009). 『(英語) 授業改革論』教育出版.